

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020 年 2 月 10 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2019 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

いきいきワクワク仲間づくり

地域住民が求めているものは
制度に頼らない暮らし方とは
認知症、独居の方の暮らしを支えるには
生きるとは

活動団体名：一般社団法人ミモザ 在宅看護センターミモザ

活動者（助成申請者）名：長澤祐子

地域啓発活動
ワクワクいきいき仲間づくり

一般社団法人 ミモザ
長澤祐子

期間：2019年4月20日～2020年2月7日
参加者総数：287名（複数回参加者含む）

【内容】

※月1回福岡市中央区谷サロンでの地域交流会（福岡市中央区社協と協力）
近隣の内科医、セラピストの参加協力で、毎回座って出来るリハビリ体操、生活習慣病についての勉強会、終了後お茶の時間を設け座談会
※お楽しみ企画で お抹茶の会 琵琶演奏とお抹茶の会を開催
※生きるとは 死生学カフェ開催
※認知症、独居の方々の対応を考える
※9月～宗像市日の里ココカラ日の里コミュニティーサロンにてココカラカフェ、暮らしの保健室開始
CoCokara 通信にて呼びかけ地域の方々の集いの場を作っていた
※地域の方々からの声掛けで出張出前講座「訪問看護を知る」を2回実施
参加された方の中から自分の町内でも話をしてほしいと依頼があり出前講座も広がっている。

【会を開催する中で見えてきたのは】

非日常的な空間と非日常的な体験が嬉しく楽しみであり求めている
時々会う仲間が良い
強制的でないのがいい
専門家がいるのが頼りになる
大勢の中では聞けないことも聞ける
お抹茶の会や琵琶の演奏の企画には初めての参加者も増え、地域啓発活動の意味を説明し新たな参加者が増えた
寝込んだイメージ、人生終わりのイメージがわからない
人の世話になることに抵抗がある
介護保険の事医療保険の事、金額の事 在宅で過ごすための資金（死ぬまでにいくらかかるのか）などを
知りたい 具体的にわからない どこに聞いたらいいのか 誰に聞いたらいいのか
具体的な在宅で過ごすための費用、死ぬまでにかかる費用 死んでからの費用など知りたいの意見も多かった

【考察】

参加される方々の中で繋がりが出来少しの助け合いが出来る仲間づくりに繋がっている
高齢者だけでなく多世代の方々がつながることが持続可能な地域のつながりになっていく
このような場の提供の中から新たなコミュニティが生まれ自発的な開催になることが望ましい
開催の機会が増えれば多くの参加につながる
続けることが大切
生きるの最後に死があるということの教育が大切
認知症の対応が不十分 学べばスキルは上がる

※在宅看護師が地域啓発活動を実践する場合、医療、看護だけでなく心理、教育、哲学、社会学、等々広い視野で考え、取り組むことが必要だと考える

今後も地道な活動を続けていきこれからの日本、どう生きるかを考えていきたいと思います。